

3月1日(土)~7日(金)は春の火災予防運動です



令和6年中の知多中部管内(半田市、阿久比町、武豊町、東浦町)では、81件の火災が発生しました。火災による負傷者は9名、死者は5名です。昨年と比較して火災の件数は8件減少しました。少しの油断から火災は発生します。火気の取扱い等には、十分注意してください。



令和6年出火原因

- ◇1位 たき火
- ◇2位 火入れ(※)
- ◇3位 たばこ

※農作業で、枯草や雑木などを焼くこと。

たき火や火入れが原因で発生した火災の多くは、風の影響で大きく燃え広がったり、周囲の枯れ草などに火の粉が飛んだりしたことで発生しています。空気が乾燥して風が強いときは、屋外で火を使うことをやめましょう。



住宅用火災警報器の点検を実施しましょう

住宅用火災警報器は、火災をいち早く知らせてくれる機器です。正常に作動するように、日頃の維持管理が大切です。

- ◇定期的に点検ボタン等で、メッセージや警報音が鳴るかの作動確認をしましょう。鳴らない場合は、電池がきちんとセットされているかを確認し、それでも鳴らない場合は電池を交換してください。
- ◇機器には交換時期があります。おおむね10年経った機器は、本体を交換しましょう。



住宅用火災警報器の取り付けを支援します

次の条件にすべて該当する場合は、ご希望により消防職員を派遣し、住宅用火災警報器の取り付けを行います。

- 1 購入したものの、個人で取り付けることができない方
- 2 親戚や近隣者等による取り付けの協力が得られない方
- 3 半田市、阿久比町、武豊町、東浦町にお住まいの方
- 4 平日の9時~16時までの間に取り付け可能な方

※取り付け料金は無料です。
※電池式の住宅用火災警報器に限ります。

【問合わせ】 知多中部広域事務組合消防本部 予防課 ☎21-1491

ごん吉くんレポート ~南吉よもやま話~

第77回

児童雑誌『カシコイ小学生』と新美南吉

写真は、昭和7年末から10年頃に刊行されていた雑誌『カシコイ一年《二年》小学生』です。東京神田にあった精文館が創刊しました。浜田広介の「泣いた赤おに」の初出誌であり、小川未明、北原白秋など、当時第一線で活躍していた作家や詩人の作品が多く掲載されていた雑誌ですが、南吉記念館にとっては、南吉が幼年童話を発表していたという点で重要な資料といえます。しかし長い間雑誌自体が見つからず、詳細も分からないままでした。

状況が変わったのは平成22年のこと。精文館の創業者、北村宇之松の遺族の元にまとまった数の『カシコイ小学生』があることが分かったのです。その後「アメダマ」など南吉作品を掲載した号を含めた25冊を譲って頂き、初めて掲載状況が確認できました。

その後も、宇之松の従兄弟で同社の編集者だった藤本卯一の孫、行司千絵氏(京都新聞社記者)の調査で未見の号や挿絵原画が見つかったり、当館が古書店から購入した1冊に南吉の幼年童話「ゲタニ バケル」が掲載されていることが分かったりと、少しずつですが明らかになってきたこともあります。南吉記念館では、4月12日(土)から、これまでの調査で明らかになったことや、見つかった資料などを紹介する企画展を開催します。お楽しみに。



上：表紙
下：「アメダマ」掲載頁
(《一年》昭和8年3月号)